

## 米国 低過ぎず高過ぎない消費者物価の上昇(17年12月消費者物価)

: 2018年1月15日(月)

～現在の緩やかなペースでの利上げを後押し～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

消費者物価 (Consumer Price Index)

	総合		コア		エネルギー	食料品	住宅	アパレル	運輸	医療	商品 コア	サービス コア
	前月比	前年同月比	前月比	前年同月比	前月比	前月比	前月比	前月比	前月比	前月比	前月比	前月比
16/12	+0.257	(+2.1)	+0.220	(+2.20)	+1.2	▲0.0	+0.3	▲0.4	+0.8	+0.2	+0.0	+0.3
17/01	+0.551	(+2.5)	+0.308	(+2.27)	+4.0	+0.1	+0.3	+1.4	+2.2	+0.2	+0.4	+0.3
17/02	+0.122	(+2.7)	+0.206	(+2.22)	▲1.0	+0.2	+0.3	+0.6	▲0.5	+0.1	▲0.0	+0.3
17/03	▲0.288	(+2.4)	▲0.122	(+2.00)	▲3.2	+0.3	+0.1	▲0.7	▲1.4	+0.1	▲0.3	▲0.1
17/04	+0.167	(+2.2)	+0.071	(+1.88)	+1.1	+0.2	+0.3	▲0.3	+0.1	▲0.2	▲0.2	+0.1
17/05	▲0.128	(+1.9)	+0.063	(+1.73)	▲2.7	+0.2	+0.2	▲0.8	▲1.4	▲0.0	▲0.3	+0.2
17/06	▲0.023	(+1.6)	+0.119	(+1.70)	▲1.6	▲0.0	+0.1	▲0.1	▲0.7	+0.4	▲0.1	+0.2
17/07	+0.106	(+1.7)	+0.114	(+1.69)	▲0.1	+0.2	+0.1	+0.3	▲0.1	+0.4	▲0.1	+0.2
17/08	+0.402	(+1.9)	+0.248	(+1.68)	+2.8	+0.1	+0.4	+0.1	+1.4	+0.1	▲0.1	+0.4
17/09	+0.548	(+2.2)	+0.127	(+1.69)	+6.1	+0.1	+0.2	▲0.1	+2.8	▲0.1	▲0.2	+0.2
17/10	+0.108	(+2.0)	+0.225	(+1.77)	▲1.0	+0.0	+0.3	▲0.1	▲0.5	+0.3	+0.1	+0.3
17/11	+0.386	(+2.2)	+0.117	(+1.71)	+3.9	+0.0	+0.2	▲1.3	+1.9	+0.0	▲0.1	+0.2
17/12	+0.150	(+2.1)	+0.277	(+1.78)	▲1.2	+0.2	+0.3	▲0.5	▲0.2	+0.3	+0.2	+0.3

(注) 括弧内は前年同月比

**12月の総合が前月比+0.150%と減速した一方、CPIコアは前月比+0.277%と加速した**

17年12月の消費者物価(総合)は、前月比+0.150%(前月同+0.386%)と市場予想の前月比+0.1%と概ね一致した。エネルギー・食品を除く消費者物価(CPIコア)が前月比+0.277%(前月同+0.117%)と加速し、市場予想同+0.2%を上回ったほか、食料品が前月比+0.2%(前月同+0.0%)と上昇した。一方、エネルギーでは、ガスが加速したものの、ガソリンの下落や、電気、燃料油の鈍化により、エネルギー全体で前月比▲1.2%(前月同+3.9%)と下落に転じた。

CPIコアは、変動の大きいホテル等宿泊費などの変動により毎月加速と減速を繰り返しているが、均して基調をみると緩やかな上昇傾向を辿っている。12月のCPI統計は、低過ぎず高過ぎない消費者物価の上昇を示しており、景気・雇用が堅調なもと、現在実施している緩やかなペースでの利上げを正当化する内容となった。

**12月のCPIコアは財価格が上昇に転じたうえ、サービス価格が加速した**

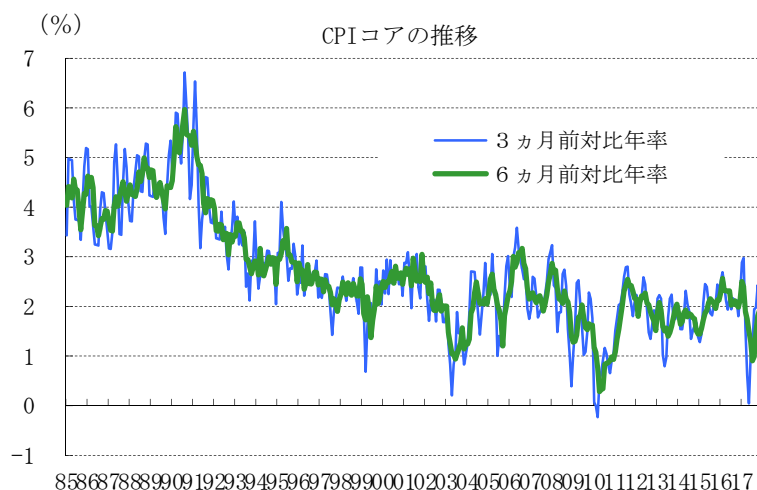
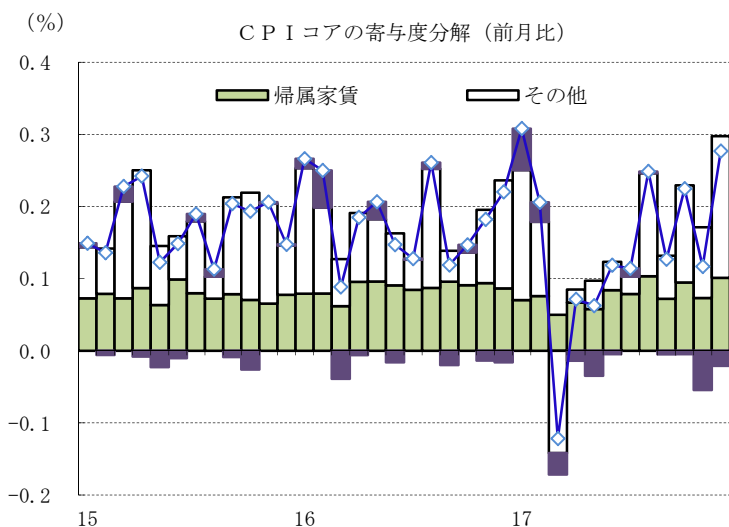
CPIコアでは、商品(財)が上昇に転じたうえ、サービスの伸び率が加速した。商品(財)価格では、IT関連商品、アパレル、テレビやゲームなど娯楽商品の下落が続くなか、教育関連書籍、タバコ・歯ブラシ・化粧品などを含むその他財が下落に転じたほか、アルコール飲料が鈍化した。一方で、家庭用家具・備品、自動車部品・設備が上昇に転じ、新車、中古車、処方箋・処方箋外医薬品が加速したことで、商品コアは前月比+0.2%(前月同▲0.1%)と上昇した。

サービスに関しては、カー・リースが前月比+0.5%(前月同+1.6%)、携帯電話サービスが同0.0%(同+0.3%)と鈍化した。一方、変動の大きいホテル等宿泊費が前月比+0.9%(前月同▲1.6%)、医療保険などを含む医療サービスが同+0.2%(同▲0.1%)、レンタカーが同+0.7%(同▲0.1%)と上昇に転じたほか、賃貸料が同+0.4%(同+0.3%)、帰属家賃が同+0.3%(同+0.2%)、スポーツイベントや会員サ

ービスなどを含む余暇サービスが同+0.3%（同+0.2%）と加速した。また、自動車保険が同+0.6%（同+0.8%）と高い伸びを続けた。さらに、航空運賃など公共サービスが前月比0.0%（前月同▲2.5%）と横ばいに改善したこと等を背景に、サービスコアは前月比+0.3%（前月同+0.2%）と上昇した。

### CPIコアのモメンタムは安定

CPIコアのモメンタムをみると、3ヵ月前対比年率で+2.5%（前月+1.9%）、6ヵ月前対比年率で+2.2%（前月+1.9%）と加速したが、ともに安定した伸びとなった。携帯サービスの価格引き下げなど一時的な要因で下ぶれていたが、足元で影響が弱まっており、CPIコアの上昇モメンタムは安定的な水準を回復している。



### 前年比では12月のCPI総合が+2.1%と低下も、CPIコアは+1.8%に上昇

12月の消費者物価動向を前年比でみると（以下、前年同月比）、総合が+2.1%と前月の+2.2%から低下したが、市場予想の+2.1%と一致した。CPIコアが+1.8%（前月+1.7%）と上昇し市場予想の+1.7%を上回ったほか、食料品が+1.6%（前月+1.4%）と上昇したものの、エネルギーが+6.9%（前月+9.4%）と低下した。

CPIコアでは、財コアが新車や中古車価格の下落幅の縮小などを背景に▲0.7%（前月▲0.9%）とマイナス幅を縮小したうえ、サービスコアは帰属家賃、賃料、自動車保険など需要の強い分野の上昇が続く中で、昨年急激に上昇した医療費の低下に歯止めがかかったことや携帯サービスなど通信サービスの下落幅縮小等を背景に全体で+2.6%（前月+2.5%）とプラス幅を拡大した。

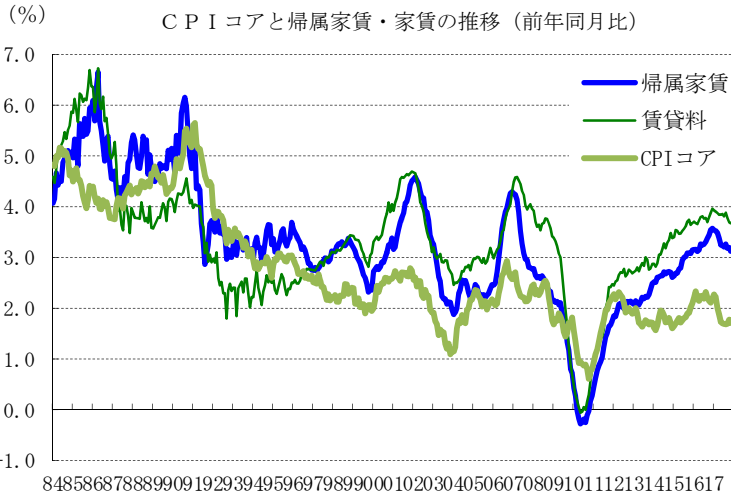
また、より実態に近い物価動向を示す連鎖CPIコアは+1.57%（前月+1.45%）と上昇した。

これまで公表された統計から、FRBが目標としている12月のインフレ統計を予測すると、PCEデフレーターは前年同月比+1.7%（前月同+1.8%）と低下する一方、PCEコアデフレーターは前年同月比+1.5%（前月同+1.5%）と横ばいになると予想される。

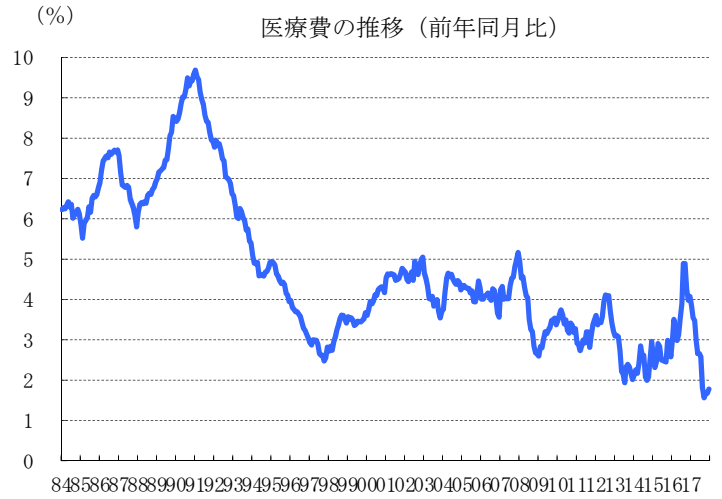
### CPIコアは今後徐々に上昇する見込み

消費者物価（CPI）コアは、医療費の下押し圧力が弱まるため上昇を継続すると予想される。ただし、緩やかな景気拡大、激しい価格競争、技術革新などを背景に、中期的に前年比+2%程度での推移を続けると見込まれる。

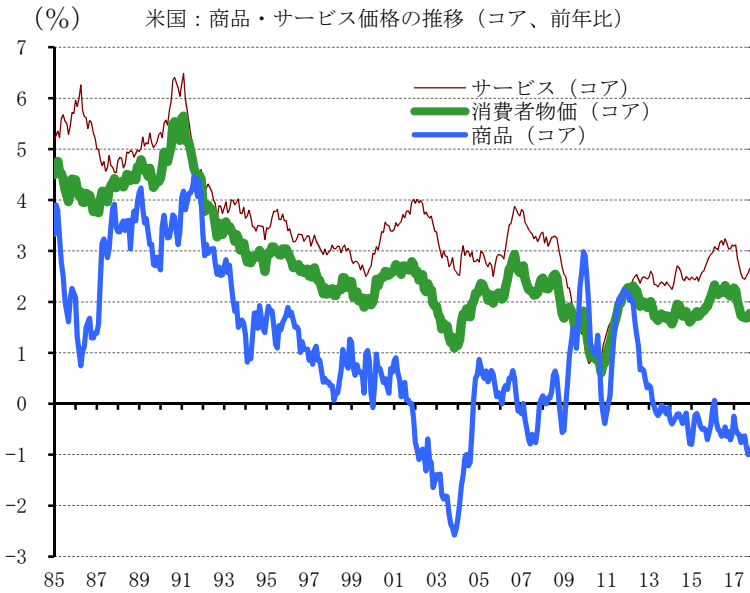
本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



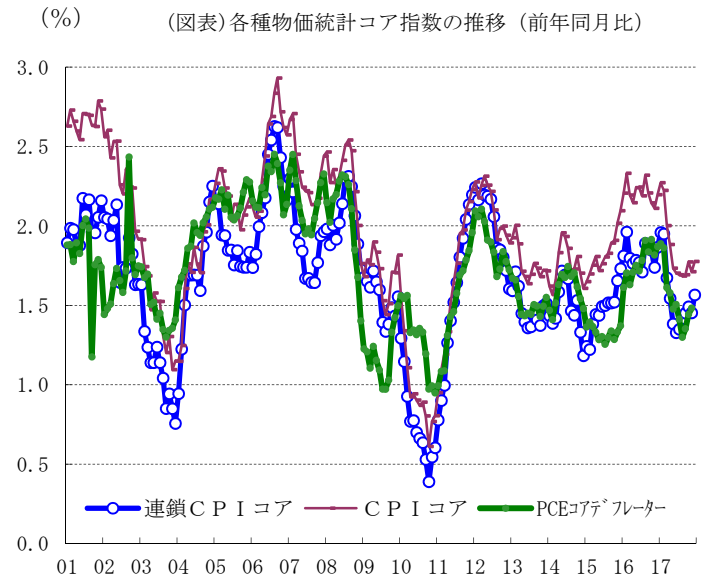
(出所) 米労働省



(出所) 米労働省



(出所) 米労働省



(出所) 米商務省、米労働省

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。